

## 持続教育(ESD)とは何か

ーパリ OECD 本部で考えるー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：パリには、何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)6月3日、4日にOECD(経済協力開発機構)の本部で開催された、OECD フォーラム 2008 に参加するためです。

このOECD フォーラムは、先進主要国の首脳が集まるサミットのテーマに従い開かれるOECDの閣僚会議と同時に、毎年開催されるものです。公用語は英語とフランス語。参加者は約1000名で、半数以上はマスコミ。日本からの参加は37名で、マスコミは30名近く。NHKは12名もの取材団を送り込んでいました。

私は、OECDのホームページから、インターネットで参加申込をしました。

Q：テーマは何だったのですか。また、なぜ林さんはこの会議に参加したのですか。

A：テーマは、洞爺湖サミットを先取りする「気候変動と持続可能な経済社会」でした。私は、「持続可能な社会のための教育(Education For Sustainable Development)」、略して「持続教育(ESD)」に関心があり参加しました。

Q：何ですか、その「持続教育(ESD)」とは。

A：気候変動や大量破壊テロなど、地球環境や人々の生活に負荷を与える本当の原因を考え、その原因を教育の面から除去するためのものと私は考えます。

Q：具体的にはどのようなことですか。

A：地球環境に負荷をかけない生活とは何かを考え、具体的に実行に移すための教育。大量破壊テロの原因となる貧困の撲滅のための教育など、様々なテーマが考えられます。

Q：貧困の撲滅のために、教育は有用ですか。

A：有用です。極めて有用と確信します。文字が読め、書け、基礎的な計算ができることが、貧困からの脱却の第一条件と私は考えます。福沢諭吉先生の「学問のすすめ」にあるように、地理や歴史、物理や科学、会計、識字能力、計算能力はじめ毎日の生活や仕事に必要な基礎教育が、貧困からの脱却に必要な不可欠と考えます。

Q：OECDのような先進諸国での課題は何ですか。

A：単なる仕事、つまり単純労働以上の仕事(More than Jobs)が求められているのが先進諸国です。「仕事能力(スキル)が基盤となった経済社会(Skilled Based Economy)」で求められるのは、「仕事

能力の高い働き手(Skilled Worker)」です。そのために、絶えざる「仕事能力の向上(スキルアップ)」が必要と言えます。

失業率を1.8%まで下げたデンマークの代表からは、失業率を下げ持続可能な社会をつくるため、デンマークでは学校を卒業して社会に出てからの教育システムづくりに、国家のエネルギーを集中しているという報告を受けました。

イギリスの前首相は「教育、教育、教育」と叫び、イギリスの再建を目指しましたが、現代のヨーロッパでは「社会に出てからの教育」と「高等教育(つまり大学教育)」の大切さがすべての国で叫ばれています。

**Q：「社会に出てからの教育」の内容は何ですか。**

A：英語とコンピュータ、それに各自の得意分野つまり専門領域を深める教育の3つです。ヨーロッパの共通言語は英語です。コミュニケーションの手段としての英語とコンピュータは、仕事の上での絶対条件です。これに加えて、専門領域の深い知識と教養、技術が求められます。

**Q：なぜですか。**

A：NATO という軍事同盟を背景に、力強い経済統合が飛躍的に進んできたからです。人、もの、資金の移動が激しくなったとき、英語とCP、専門性なしで質の高い仕事をすることは考えられません。そのための教育費用は、社会が担うべきというのが大方の考えです。

**Q：学習塾、予備校、私立学校の皆様にお伝えしたいことはありますか。**

A：学習塾や予備校で「学校の定期テスト対策」や「受験対策」をするときに、「ここが出るから覚えておくように」という指導、もっと言えば、「100点を取らせればよい」「合格さえさせればよい」という指導では、ヨーロッパなどとの国際競争に勝てません。日本は陥没します。もう中止したらと思います。

一つ一つのことを丁寧に「理解」させた上で、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」などを十分させて「定着」を確認した上で、あらゆる「テスト対策」はすべきと考えます。

例えば、英語について言えば、「点さえ取ればよい」というあやふやな学習では、いくら時間をかけてもヨーロッパの人々の英語力に追いつくことはできません。子どもたちや日本の将来のことを考えて、「本格的」な教育をすべきと考えます。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：何歳までスキルアップを図らなければならないのか、会議では、Living Longer、Working Longer(より長く生きよう、より長く活動しよう)が議論されていました。現代社会に即した活動をするためには、65歳を過ぎても絶えずスキルアップを図らなければならないと私は考えます。

今月も本を一冊紹介させていただきます。ジェフリー・サックス著「The End of Poverty - 貧困の終焉」2006年刊です。最近のサックス先生の著作「Common Wealth(コモン・ウェルス)」と合わせてお読み下さい。

— 2008年6月15日クアラルンプールにて記す —